

有機技術通信

トピックス

- 第1回研究会（公開セミナー）を開催
- 第2回研究会（公開セミナー）のお知らせ
- 茨城県で現地視察会を開催
- 自給率を向上するために畜産飼料の国内自給を高めよう
- NPO法人化に向け設立総会を開催

www.ofrc.net

農を変えたい！全国運動
有機農業技術会議 事務局
発行責任者：藤田 正雄

第1回研究会（公開セミナー）を開催

6月16日、茨城大学農学部で第1回研究会「有機農業の採種と育種技術を考える」（主催：有機農業技術会議）を開催し、関東圏の農業者を中心に108名の参加があった。講師として生井兵治氏（元筑波大学教授）、中川原敏雄氏（自然農法国際研究開発センター育種課長）、長崎県で有機農業を実施されている岩崎政利氏（種の自然農園）の3名を招いた。

生井氏は、宇宙および人類の歴史に根ざした育種の意味を踏まえて、遺伝子組み換え作物のもつ問題点をわかりやすく説明した。そして、有機農業の採種・育種の基本原則として、①有機農業の場を採種と育種の場とし、②良心的な育種研究者・育種事業家と農業者・消費者とが共同し、③育成品種は自家採種して累代利用できること、の3つの大前提を示した。

中川原氏は、育種を専門とする立場から種どりのポイントを説明した。有機農業の育種目標に「根張りが良く、少ない肥料で育つこと」を上げた。採種に用いる個体（母本）を選ぶには、栽培環境や作物間の相互作用の自然条件による選択を重視して、その中から人間による選択をおこなうことを強調した。

岩崎氏は、種どりしている一つひとつの“たね”にもものがたりがあり、種どりを続けること、すなわち、

世代をこえて種を守り続けることのすばらしさと、そのことが地域の文化を豊かにすることを語った。その言葉からは種どりを通して、作物の一生とつきあうよろこびがあふれていた。

総合討論では、種の保存・保管方法や選抜方法、地域で守り続けられた種が購入する“もの”になってしまったことなどについて、意見交換を行った。なかでも、育種家に都合のよい種苗法の改正が、農業者の種どりに及ぼす悪影響について論議され、農業者が自家採種している現実を知らしめることの大切さが強調された。今後、採種・育種に関心のある方による分科会を通して、有機農業の採種と育種技術について、さらに深めていきたい。

（当日配布資料はWeb上からダウンロードできます）



総合討論

講演風景

第2回研究会 （公開セミナー）

～有機農業の新規就農を考える～

有機農業の実施者を増やすためには、新規就農者の育成が重要となってきます。そこで、有機農業の新規就農について研究会を開催します。高知県で新規就農し、現在は「土佐自然塾」で有機農業の人材育成をされている山下一穂氏（当技術会議理事）より新規就農の現状と問題点についてお話をいただきます。さらに農政関係の方や、京都府内で新規就農された方の発表も予定しています。

詳しくは随時Website(www.ofrc.net)にてご案内致します。

日時 2007年9月22日（土）13:30～17:00
場所 キャンパスプラザ京都 2F 第1会議室
〒600-8216
京都市下京区西洞院通塩小路下る
（JR京都駅北口より徒歩3分）
連絡先 有機農業技術会議 事務局
E-mail office@ofrc.net
Fax 0263-92-6808
会費 1,000円（当日支払・会員無料）
※人数把握のため、事前にご一報願います。

茨城県で現地検討会を開催

4月に開催した独立行政法人中央農業総合研究センター（中央農研）との意見交換会を受けて、6月6日、茨城県石岡市（旧八郷町）の魚住道郎氏およびJAやさと有機部会（部会長：広沢和善氏）の圃場で「有機農業技術開発のための現地検討会」を開催した。中央農研からは丸山清明所長をはじめ約20名が、他に当技術会議および日本有機農業学会、日本有機農業研究会、地元農業者など合計約60名が参加した。午前9時30分に集合し午後5時まで、圃場見学と検討会を行った。丸山所長は「有機農業を教えていただきに来ました」と、現地検討会に臨む姿勢を述べた。

水田15aおよび畑300a、平飼養鶏600羽で、有機有畜複合経営をされている魚住氏からの「経営全体をみて評価してもらいたい」とのあいさつの後、ジャガイモ、キャベツ、ナス、キュウリ、小麦、養鶏、水稻などを見学した。併せて、JAやさと有機部会の方の圃場も見学した。

地元の有機農業実施者を育成するために、新規参入者を毎年1家族ずつ受け入れているJAやさとの研修施設「ゆめファーム」を視察後、総括検討会を行った。JAやさとの田村和夫組合長、柴山進総務部長は有機部会10年のあゆみを報告した。旬がなくなった食生活、資材の利用、土づくり、病虫害対策など有機農業に関わ

る様々な話題が話し合われた。

魚住氏は、「私たちは実験材料ではない。中央農研の研究者の方にも、有機農業を実践するなかで、日々観察を通して、有機農業を実感してもらいたい。その上で、私たちも協力していきたい」と今後の希望を語った。

有機農業の技術を確立するためには、それぞれの実施内容について、農業経営の視点と栽培技術の視点が大切である。様々な視点で有機農業を捉えるためにも、中央農研と当技術会議で相互理解を深めて、有機農業技術確立に向けて協働しながら、意見交換を継続していきたい。



総括討論

現地見学

自給率を向上するために畜産飼料の国内自給を高めよう

6月14日、畜産飼料の国内自給を高める全国集会（主催：有機農業技術会議）を、いわて県情報交流センター（盛岡市）で開催した。農業者や流通業者、研究者ら約100人の参加があった。飼料自給率の向上に向けて、肉牛肥育や酪農、養豚、養鶏などの各生産者の先進的な取り組み事例を報告した。

前日の13日には現地視察会を行い、生産者、消費者、畜産加工業者ら約60人が参加した。短角牛生産地、久慈市山形町内の農家などを視察して、国産飼料だけで飼育している先進的な取り組みを学んだ。

我が国の食料自給率の向上には国産飼料での飼育が欠かせない。本集会をきっかけに、経済効率を優先した穀物などの濃厚飼料による飼育への警鐘となり、国産飼料での飼育が拡大することが期待される。

NPO法人化に向け設立総会を開催

6月17日、茨城大学農学部で当技術会議を法人化するための設立総会を開催し、承認された。今後、「特定非営利活動法人有機農業技術会議」として、長野県に申請する予定。

賛助会員募集のご案内

有機農業技術会議では、当会議の趣旨に賛同して下さる方を対象に賛助会員制度を設けております。会員の方々へは、電子メールによる機関誌や研究会などのご案内、研究会・研修会などへの割引参加、総合研究会への参加、ご意見・ご要望の反映などのサービスもあります。この機会に是非お申込みください。

お申し込みは技術会議事務局にご連絡ください。また当会議ウェブサイトwww.ofrc.netのホーム→入会案内からも用紙がダウンロードできます。皆様のご入会をお待ちしております。

有機農業技術会議事務局

〒390-1401

長野県東筑摩郡波田町5632

（財）自然農法国際研究
開発センター

農業試験場 内

FAX:0263-92-6808

E-mail: office@ofrc.net

Website: www.ofrc.net